

目指す学校像	人生 100 年時代の土台づくりとして「世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子」を育成するためにチームで支援する学校
--------	--

重点目標	1 教育DX「学びの個別最適化」と探究化の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる授業改善と働き方改革
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標								実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	(現状) ○R3 全国学力・学習状況調査は国語、算数とも全国、市平均と比べ、良好な結果である。 ○国語の解答時間が足りないと感じた子は 35%もいた。「文章の構成」「要旨をまとめる」「文法」の解答率が市平均と比較して低い。 ○市の学習状況調査において各教科の「好き」に関する肯定的な回答は理科以外の国、社、算、GSにおいて市平均と比較して低い。 ○ギガ端末を使って調べたことを整理し、まとめ、プレゼンすることに意欲的な児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から 50 文字程度の文章を素早く読み取る力に課題がある。 ○テスト等はある程度できるが、関心が高まっておらず、学習する意義や、達成感、充実感を味わえるようにし、学びの楽しさを実感させることが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる探究型授業の実現	①スタディサプリ、ドリルパークを活用した学習相談を実施し、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査の結果を基に、読解力に関する状況を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力を向上させる。 ①市教委嘱「学校保健等」の研究発表会(1月)に向け、タブレットを活用した探究型の授業研究を5本以上実施し「見沼小 AL スタンダード」を確立する。 ②教科横断的にワクワクする事業を実施し学びの関心を高める(若田宇宙飛行士関連/国際理解・国際交流/STEAMS TIMEで「Pepper君」を活用)	①国語、算数について全児童に対して9月末までに、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、市の学習状況調査で読解力に関する問題について、正答率を各学年70%以上、もしくは市の平均以上とすることが出来たか。 ①学校評価アンケートで3年生以上の「各教科(国社算理)が好き」が80%以上、もしくは昨年度の市学調以上になったか。 ②実施後の児童、保護者アンケートで学びの肯定的な回答が80%以上となったか。STEAMS TIME後の児童アンケートで理科やプログラミングに関する肯定的な回答が80%以上となったか。						
2	(現状) ○R3 全国学力・学習状況調査においては、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国・県平均を上回った。 ○学校評価「いじめや悩みについて適切に対応している」の質問に肯定的な回答は、職員が100%に対し、保護者は77%に留まり15%が「わからない」と回答した。 (課題) ・職員による施設、設備の安全点検は定期的に行われているが、分担場所以外の状況は分からないため、学校全体を意識した点検にすることが課題である。また、児童自ら危険を予測したり、回避したりする力を育むことも課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成	①保護者に向けて懇談会や本校HP、各種発行物等を通していじめに関するメッセージを発信し、いじめ方針や対応を周知する ②生徒指導・教育相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ①安全点検の結果を職員室に掲示し、職員の意識を高めるとともに、本校HPに公開し見える化を図る ②情報端末を活用し校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、児童と結果を共有できるようにする。	①学校評価アンケートで保護者のいじめに関する項目が80%以上となったか。 ②教員アンケートでいじめや長欠に関する校内委員会で組織的な対応で、肯定的な回答が80%以上となったか。 ①学校評価教員・保護者アンケートで安全点検への意識が昨年度より向上したかに関して肯定的な回答が80%以上であったか。 ②児童アンケートで、「以前より安全を考えて行動するようになった」と回答する児童90%以上。ケガの件数が昨年度同時期より減少。						
3	(現状) ○コミュニティ・スクール4年目。第3(成長進行)ステージに差し掛かった段階だが、SSNは昨年度末に再始動したばかりである。 ○昨年度からの学校運営協議会の熟議で、目指す児童像の実現のため、地域の教育資源である「東大宮音頭」を教育課程に位置付けたらどうか、という意見が出ている。 (課題) ○次年度以降、第4(成熟)ステージを目指していく段階だが、SSNが始まったばかりであり、昨年度のコミュニティ・スクールの認知度(保護者)は73%に留まっている。	・コミュニティスクール「成熟ステージ」に向けてのプラン策定と行動 ・目指す児童像を地域全体で共有するためのICT活用	①学校地域連携コーディネーターの調整によりCS熟識による「東大宮音頭プロジェクト」を実現する。(教育課程、特別活動、学校行事) ②学校地域連携コーディネーターの調整により本校HPや通信物等で再構築されたSSNが行った事業を発信し、地域、家庭と共有する。 ①校内体制を整えホームページ更新頻度を向上させる。(週2回以上) ②ICTを活用し、学校行事等に係る保護者アンケートを学期に1回実施し、PDCAサイクルに生かす。	①運動会後の保護者、職員アンケートで関連項目の肯定的評価80%以上であったか。 ②SSNによる学校支援活動が新規に行われたか。保護者アンケートでSSN、CSの認知度を含め、肯定的評価が80%以上となったか。市学調で地域との関わりの項目が昨年度より高まったか。 ①保護者による学校評価アンケートで関連する項目の肯定的な回答が90%以上となったか。 ②保護者の意見をまとめ校内で検討し、次の行事等に生かしているか。また内容によっては早急に対応しているか。						
4	(現状) ○高学年での一部教科担任制実施により、より深い教材研究を行うことが出来ている。 ○少人数の教職員集団のため、一人当たりの雑務が多い。 (課題) ○ICTの活用や探究的な学びについて、教員間で取組の差が見られる。 ○教材研究や児童と向き合う時間確保が難しい。	・授業改善と、そのための教材研究や子どもたちと向き合う時間を確保する働き方改革	①教科担任制での専門的な指導や、学びの楽しさを実感できるICTを活用した探究的な学びの授業を学期に1回以上公開し、管理職の指導を受ける ②職員会議数の減少、一部教科担任制の導入、集金業務のキャッシュレス化(教材費、学年費の口座振替)等働き方改革を推進する。	①すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学校評価の職員による「働き方改革」に関する項目で肯定的な回答が8割以上となっているか。						